

群馬県庁OBを農業普及専門家としてジンバブエへ派遣

- 日本の現場で培った経験・知識でアフリカ農業の発展に貢献 -

2019年8月、第7回アフリカ開発会議（TICAD7）¹が横浜で実施され、アフリカへのさらなる農業開発支援が約束されました。国際協力機構（JICA）は、この会合に合わせ、地方自治体出身の4名（愛知県・茨城県・佐賀県・群馬県）をアフリカにJICA専門家として派遣します。

群馬県庁OB、澁谷喜久氏は、JICA技術協力プロジェクト専門家の一員として、ジンバブエで実施中の「市場志向型農業振興プロジェクト（通称：ZIM-SHEP）」に従事します。現地では、プロジェクトの他の日本人専門家と協力しつつ、ジンバブエの農業普及員に対する技術指導を行います。特に、群馬県の農業行政や農業普及の現場で培われた知識と経験の活用により、アフリカの農業の発展への貢献が期待されています。澁谷氏は2020年1月29日に日本を発ち、1ヶ月間に渡り現地で業務に従事します。

1. 澁谷氏について

群馬県庁では農政部長としての職務経験があり、退職後はNPO法人自然塾寺子屋に所属し、途上国の農業研修生を対象とした農業技術研修などに取り組んでいます。また、JICAで実施中のプロジェクトに技術的なアドバイスをする目的で、以下の海外渡航経歴があります。

- ① パラグアイ共和国及びパナマ共和国 青年研修「行政と住民の協働による地域開発コース」に係るフォローアップ調査・次年度案件ニーズ調査
- ② 自治体職員によるJICA事業理解促進調査（パラグアイ日系社会連携事業可能性調査を含む）
- ③ ブータン王国 中西部地域園芸農業振興プロジェクトの技術指導
- ④ インドネシア共和国 官民協力による農産物流通システム改善プロジェクトの技術指導

2. ジンバブエ「市場志向型農業振興プロジェクト（通称：ZIM-SHEP）」概要

- ジンバブエは、アフリカ大陸の南部に位置する内陸国です。国土面積は日本とほぼ同じく、豊富な鉱物資源と、農業が国の経済を支えています。
- 現在のジンバブエの農業は、主に小規模農家によって営まれています。同国政府は、小規模農家の生産能力向上支援に注力している一方で、様々な課題に直面していました。
- このような背景から、JICAは、本邦で開催する「市場志向型農業振興（SHEP）²」の研修にジンバブエの関係者を招き、「作ってから売る」ではなく「売のために作る」考え方にに基づき、栽培技術やマーケティングの知識を学ぶ機会を提供しています。
- この研修から得た学びを得た研修参加者が、ジンバブエに帰国後もSHEPを活用した活動を展開しています。彼らの取り組みを支援しつつ、ジンバブエ国内全域への展開を支援するために、同国政府の要請に基づき、ZIM-SHEPが立ち上げられました。
- ZIM-SHEPでは、SHEPを活用した農家の自立および普及員の指導能力向上を支援し、小規模農家の所得向上に寄与することを目的とし、5年間の計画で2019年3月に開始されました。

澁谷氏の派遣に併せ、取材の機会を設けます。ご希望される場合は事前にご連絡をお願い致します。

【本件に関する問い合わせ・申込先】

JICA 東京 市民参加協力第一課 長谷川（はせがわ）

TEL: 03(3485)7051 FAX: 03(3485)9655 Email: tictpp1@jica.go.jp

¹ TICAD7参考: <https://www.jica.go.jp/africahiroba/ticad/>

² SHEP 参考ページ: <https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html>